

澄川都市環境林 右精進川水質調査

実施日: 2025年 9 月 19 日 (金)
天気: 晴れ 前日の天気: 晴 (過去1週間で9月13日雨)
調査員: 榎棒、老田、平、柿沼、二郷、小林、本郷(記録者)、酒巻さん(水生生物同定)

		地点0 最下流	地点2 キャリコ橋	地点4 上流	参考(源流部)	井戸水	
気温(℃) (測定時刻)	温度計No.1		18.3(9:45)				
	温度計No.2	24.2(11:25)	23.0(9:45)	23.4(10:01)			
水温(℃) (測定時刻)	温度計No.1						
	温度計No.2	20.2(11:25)	19.1(9:49)	18.6(10:31)			
電気伝導度 (μ S/cm)		296	216	566		350	
pH		6.0	6.8	5.9	5.7	6.8	
流量 (m ³ /sec)	流速(m/sec)	0.13	0.08	0.38			流速測定のための流下時間はピンポン玉を浮かべて計測
	断面積(m ²)	0.124	0.124	0.020			
	流量 = 流速 × 断面積	0.016	0.010	0.008			
	川幅(m)	1.50	1.40	0.70			
	水深(m)	0.14	0.15	0.05			
水生生物	目視確認&顕微鏡検査	オニヤンマ科 1 (オニヤンマ) サナエトンボ科 9 (ダビドサナエ属)	ヤンマ科 1 サナエトンボ科 11 (ダビドサナエ属) アメンボ<幼虫> 1 ユスリカ科(その他: 腹脚なし) 1 ミミズ綱(その他) 1 (ミズミミズ科) ドブシジミ科 1 (マメシジミ属)	コカゲロウ科 2 オニヤンマ科 3 (オニヤンマ) サナエトンボ科 1 (ダビドサナエ属) ゲンゴロウ科 4 (ヒメゲンゴロウ亜科) ガガンボ科 2 ヒラマキガイ科 3			採取方法 Dネット使用。ネット上流側の川底を蹴り流れ出した生物と、手で起こした石の表面から採取した生物をネットにとる。 上記の採取を1分間行い、異なった場所でも採取作業を3回繰り返し返した。1回ごとにネットに入った試料を白いバットに移した
		カワニナ科 5 (カワニナ)	カワニナ科 15 (カワニナ) キタヨコエビ科 3				
		<<その他の生物>>					
		<両生類> ツチガエル 2 <魚類> フクドジョウ(6cm、12cm) 2	<魚類> フクドジョウ(5cm) 1	<両生類> ツチガエル 1			
	出現科数	3	5	6			
バックテスト (mg/L)	総スコア	18	33	31			7.5以上 とても良好 6.0以上7.5未満 良好 5.0以上6.0未満 やや良好 5.0未満 良好とはいえない
	平均スコア	6.0	6.6	5.2			
	りん酸態りん	0.05	0.2	0.1			
	COD	6.0	6	6	0.05	0.1	評価の目安 0.05未満
	亜硝酸態窒素	0.005	0.005	0.005	6	8	0~5が望ましい
	硝酸態窒素	1	0.2	0.2	0.005	0.01	通常0.02以下
	補正値 (硝酸態窒素-亜硝酸態窒素×8)	0.96	0.16	0.16	0.2	0.2	通常1~2前後
環境観察	アンモニウム態窒素	0.2	0.2	0.2	0.16	0.16	
	鉄	0.2	0.2	0.2	1	0.2	0.2未満はきれい
	鉄	0.2	0.2	0.2	5	0.2	
環境観察	川底の状態	砂、小石、泥	砂、小石、泥	砂、小石			
	水のにごり、におい等	なし	なし	なし			
	その他、目にした り、聞こえる もの及び気の 付いたこと等を 記入	泥が多く、底が浅い	橋下流が二股になり、新たな流れが勢いがある 水芭蕉の葉が見かけられない 調査地点までの行程に倒木・枝が散見	流れの中央部で赤褐色部分がない箇所がある 葉が流されたのか 澄んだ流れ 下流部の幅が広がっている	噴出し口の場所が前回から移動している		